

## 学校概要

創立	145周年	学校長	二瓶 光代	副校長	増野 潤	学期	2	学期制	児童・生徒数	575人
学級数	一般級: 18	個別支援級:	2	主な関係校:		あかね台中 奈良の丘小				

## 学校教育目標

「豊かで調和のとれた子の育成」  
 たくましく生きる人[健康]体を鍛え心をしなやかにし、心身ともに健やかな子どもを育てます。  
 なかよく生きる人[共生]一人ひとりのよさを認め合い、共に生きる子どもを育てます。  
 (知)自ら問題意識を持ち、それを主体的に追究していける子を育てます。  
 (徳)田畑など勤労生産的な活動を通して自然や生命あるものを大切にし、感謝の気持ちが持てる子を育てます。  
 (体)心と体をすこやかにはぐくもうとする子を育てます。(公)人と豊かにかわりながら、自らを高めることができる子を育てます。  
 (開)多様な価値観を認め合い、人のかかわりを大切に育てます。

## 学校の特徴

□畑、水田、川などの自然、駅、交番、交流ラウンジ、福祉施設、寺、文化財など社会科や総合、生活科で活用できる材が豊富にある  
 □保護者、地域、学援隊の方々、学校に協力的である。 □よく食べよく運動する子どもが多い。  
 □温かなまなざしで熱心に学習指導、児童指導に取り組む職員が多い。  
 ■人とかわりながら、自らをより一層高めていく必要がある。  
 ■まちに豊富にある学習材を見通しを持って活用し、追究力を育てる学習を展開する必要がある

## 学校経営中期取組目標

○子ども一人ひとりを大切にしながら、まちとともに歩む学校にします。  
 ・自ら問題意識を持ち、共に学び合う子を育てます。  
 ・一人一人が、自己有用感を持ち、楽しく学校生活を送れるようにします。  
 ・まちの自然、人、ものと豊かにかわり、まちを愛する子を育てます。

## 小中一貫教育の取組

**あかね台中 ブロック** : 9年間の子どもの成長を見通した小学校、中学校と地域の連携推進

**9年間で育てる子ども像**  
 自ら進んで学び、鍛え、共に生きることのできる子ども

**自校の具体的取組**  
 小中合同での授業研究会を開催することで小中一貫カリキュラムの検証を行う。また、研究討議などを通して教職員同士の交流や情報交換等を行い、小中学校間の相互理解を図る。  
 まち憩や地区懇談会で情報交換を行い、地域と連携を図りながら子ども達を育てる。  
 中一ギャップを解消するために、合唱・部活動体験・生徒会説明会を通して中学校との交流を図る。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
<b>確かな学力</b>	基礎基本の定着を図るとともに、主体的に課題を追究していく力の育成を目指す	①書く活動やグループ討議などを取り入れ、子どもの考えを引き出す授業に取り組む。②子ども達が地域の材(人・自然・施設・伝統的な事柄)とかかわり、問題を持ち、追究し、考えを表現・発信する社会・生活・総合を展開する。③子どもが問題を追究していけるように繰り返し地域とかかわりを持たせ、子どもと共に学習の流れを作り、教科の関連を図るなどして学び方が身につくような支援を行う。④家庭と連携し、家庭学習を習慣化し、基礎基本の定着を図る。⑤ <b>全教員で算数指導を研究し、子ども達の思考力・表現力の育成に取り組む。</b> ⑥4年生においては <b>算数少人数指導</b> を行う。
担当 研究部A研B研		
<b>豊かな心</b>	道徳の充実を図り、体験活動を通して、人と自然に豊かにかわりながら子ども達の豊かな心情を育てる	①道徳の授業を年1回保護者に公開する。②人とかかわり方が身につくよう、学級やたて割り班で積極的な支援を行う。③体験学習、水田や畑を活用した学習で、自然や自他を大切にする態度を育てる。④ <b>保護者にスタンダードの内容を発信し協力を仰ぐとともに、職員間でスタンダードを十分共通理解し指導にあたる。</b> ⑤子どもの発想を取り入れたあいさつ運動に取り組む ⑥ <b>保育園との交流を推進する。</b>
担当 研究部道徳・特活		
<b>健やかな体</b>	なわとび検定や記録会に取り組むとともに3年生の一輪車学習を通して体力向上を目指す	①各学級が、大縄跳びの練習に継続的に取り組む。②全校で縄跳び検定、記録会に取り組む。③3年生は外部講師の協力により一輪車学習に取り組み、4年生は運動会で一輪車の運動を取り入れた演技を行う
担当 研究部体育		
<b>いじめへの対応</b>	児童理解に努め、子ども一人ひとりの心理や特性を見出す。	①子どもと十分にかかわり実態を把握、年2回の子どものアンケート、年2回のYPアセスメント、田奈小独自のアンケートにより、いじめ未然防止に確実に取り組む。②職員は、いじめ防止の研修を行い、さらに自分の指導の在り方を振り返る。③子ども一人ひとりの状況を全職員で情報共有し、チームによる支援を進める。④ <b>いじめ防止対策委定例会は月1回開催する</b>
担当 指導部いじめ防止委		
<b>地域連携</b>	地域保護者の期待に応える教育活動を協力を得ながら継続する	①トランペット鼓笛隊や水田・菜園の活用、その他の学習において保護者・地域の協力や教育力を積極的に活用する。②実践を足あとカリキュラムにして職員間で共有する。②校歌の歌詞、保護者のニーズである国際性を育てる一つの取り組みとして、6年が英語村に取り組む。③ <b>子ども達のまちの人・ものに対する愛着心が深まるように、みの博に昭和40年代以降発見されたものの資料や地域の願いでもある清兵衛翁の偉業を展示する。</b>
担当 総務部地域連携		
<b>特別支援教育</b>	どの子ども安心してすごせるように適切な支援を行うとともに、一般級と個別級の連携を密に交流教育を進める。	①交流教育委員会にて実態や方針を共有する。 ②ユニバーサルデザインやアンダー・マネジメントについて研修を行い、学級経営に活かす。 ③ <b>特別支援コーディネーターが中心となり迅速に校内委員会を開催し、とりだしや通級などに対応する</b>
担当 総務特別支援委		
<b>人材育成・組織運営</b>	全職員がキャリアステージに応じた取り組み目標を理解し、学校運営に参画する	①どの学級も同じように充実した学習指導を行えるよう学年研で教材研究を深める。②全職員が自己観察書と学級経営案を運動して作成し、自己評価する。③主幹会、教務会、学年主任会により、学校リーダーが全体を見通して学校運営していく。
担当 指導部学年主任会		